



# 3月の園だより

令和5年3月1日

目黒区立田道保育園園長

暖かい日差しで桜のつぼみが膨らんできました。5歳児クラスの子どもたちは卒園にむけて歌や言葉の練習で忙しい日々ですが、ランドセルの色や小学校のことを話題にして就学への期待を膨らませています。

先月はおすもう月間でした。30年以上続いている相撲は体づくりの一環として、6月、2月の1か月間行っています。勝ちたいという気持ちが朝ごはんをたくさん食べる、早く寝るなど子どもたち自身で生活リズムを整えたり、「うちで練習したよ」と家族での楽しいスキンシップになったりしています。近年は感染予防で1クラスずつ行ってきた千秋楽でしたが今年は幼児3クラスが集まってそれぞれのクラスの取り組みを応援し合い今まで以上に活気のあるものでした。3歳児クラスの取り組みでは、名前を呼ばれると土俵に飛び乗り相撲の構えをして気合十分で多数の観客の声援に緊張することなく勝っても負けても楽しそうでした。4歳児クラスでは、一人の子が負け越していたので「まけちゃうんだよね」とつぶやいていました。保育士に名前を呼ばれると表情が一転し、勝ちたいという闘志がみなぎっていました。負けてしまっても、「次は勝つ」と土俵に上がる心の強さに頼もしさを感じました。そして最後の千秋楽となる5歳児クラスの子どもたちは“強い”相手を指名します。勝つことだけが相撲の意義ではないことを子どもたち自身が感じているようでした。勝負は負けてしまっても清々しい表情をしていました。田道保育園の相撲が子どもや職員がかわっても長い間継承されている理由がわかります。



一年間を通して、子どもたちは保護者の方の温かい眼差しを受け、安心した保育士との関係の中で好きな遊び、友達を作り心も体も成長しました。今年度も保育園の運営にご理解、ご協力頂きありがとうございました。



## 今月の予定

ひなまつり

中旬

卒園式

避難訓練 身体計測

おわかれ会

## <一年間の成長した子どもたちの様子>



### 「仲間っていいな」

### 5歳児クラス

工作好きなくじらぐみの子どもたちは、春の頃から色々な物を作って楽しんできました。最初の頃は自分の作りたいものを黙々と作っていましたが、最近では大きなものを友達と一緒に作る姿も増えています。この1年友達と協力する活動をたくさん経験し、互いに考えを出し合って、もっと楽しくなるように工夫したり、自分たちで約束事を決めて遊ぶことが楽しくなってきたのが伝わってきます。ある日、大きな段ボールを「おうちにしたい」という子の考えに、どんどん他の子も加わっていき、相談して壁の色を決めたり、ドアの形を考えたりして作っていました。何人もの友達と手分けして“押さえる人”“切る人”“塗る人”“ガムテープで貼る人”など役割を分担しながら作り、完成するとみんなで喜び、今度はそのお家の中で遊びが繰り広げられていました。とても1人では作れないようなものも友達と力を合わせれば作れたり、友達と一緒に遊び方を考えるからこそ楽しさも増し、子どもたちは仲間の良さを感じています。日々一緒に過ごしてきた中で友達の良いところを見つけ、“みんながいてよかった”と思える関係を築くことができました。



## 「せんせいもどうぞ」 0歳児クラス

室内に貼ってある果物の絵カードが大好きでバナナをつまんで食べる真似をしています。保育士と目が合うと再びつまんで口元まで持ってきてくれ「おいしい」と言うと満足そうに戻っていきました。その様子を見ていた他の子も“私も私も”と絵カードと保育士の間を行き来しやりとりを楽しみます。最近は低月児も寝返りをしたり、腹ばいでおもちゃに手を伸ばしたりする姿が増え、保育士と触れ合い遊びをすると声を出して笑ったりしています。その声を聞いた子が寄ってきて顔を覗き込み、さっきつまんだバナナかな？口元に差し出す姿もありました。「あーんしたの？」と声をかけるとにっこり。保育士とたくさん思いを伝わせて遊ぶ中で、人と関わる楽しさや心地よさを感じられていることに喜びを感じます。



## 「一緒にたのしいね」 1歳児クラス

緑色のリブブロックをまっすぐに繋げ「山手線できた」と嬉しそうに見せてくれます。ブロックとブロックを繋げることを楽しんでいたところから、大好きな乗り物をイメージして色を選んだり、立体的に組み合わせたりして楽しむようになりました。そんな時に「あ〜壊れちゃった」と悲しそうな声がしました。ショベルカーを作りたいと三角や四角、長方形と様々な形を組み合わせ作っていた力作が倒れてしまったのです。「修理しよう」と保育士が手伝っていると「あるよ」と近くで見ていた子が三角の部分を持ってきてくれました。“友達の車が倒れてしまった、何とかしよう”とってくれたのでしょうか。周りで遊んでいる友達にも少しずつ関心が出てきて、気にかける優しい気持ちにほっこりしました。



## 「友達と一緒に」

## 2歳児クラス

「先生一緒に遊ぼう」と保育士を誘って遊んでいるところに他の子も加わり、一緒に遊んでいく中で少しずつ子ども同士での関わりも増えてきました。最初の頃は「これはぼくの」「ここにいた」と思いのぶつかり合いも多く、保育士が間に入り、お互いの思いを聞きながら一緒に楽しむことができました。ある日、友達と一緒に大荷物を持ってピクニックに出発するとシートに見立てた布を持っていない子がいました。その子は慌てて取りに行きましたが、カゴにはもう布がありません。「もうない」と困っていると友達が「ここ一緒にいいよ」と誘ってくれ、小さな布に2人で座りました。少し狭そうでしたが2人の笑顔からは“友達と一緒に嬉しい、楽しい”という気持ちが伝わってきました。まだまだ思いのぶつかり合いもありますが、子どもたちのやりとりを見守ることも増え、保育士から気の合う友達へと興味関心が広がり一緒に楽しんでいます。



## 「ねえ またやろうよ」 3歳児クラス

外へ出るとまずは鬼ごっこをして遊ぶことが定番になってきました。保育士が鬼になり追いかけると、必死に逃げる子どもたち。初めの頃は鬼にタッチされてしまうと泣いてしまったり、「もうやらない」と抜けていく姿もありました。繰り返して一緒に遊ぶうちに“タッチされても今度は自分がタッチすればいいんだ”“鬼になって追いかけるのも楽しい”と感ぜられるようになり、今では鬼になった子は鬼同士で作戦を立て「僕はこっちから行くから〇〇ちゃんはおっちからいって」と保育士を挟み撃ちでタッチし「やったー！」と喜んでいます。「僕走るの速かったでしょ」という表情に思いきり体を動かす心地良さ、走るの速い！すごいでしょ！という自信が伝わってきます。まだまだ“自分ルール”なことも多く、あれ？という場面もありますが、みんなでもたやろうと自分たちで友達を誘い合う姿になってきました。



## 「認め合って」 4歳児クラス

ある日、積み木で遊んでいた子の所へ「私も入れて」と友達がやってきて、お城作りが始まりました。しかし「このお城どうなってるの？」「ここが入り口で、これは窓だよ」「ふーん…」と会話をすると、その子はしばらく考え隣に別のお城を作り始めました。イメージが一致しなかったのかな？と見守っていましたが、お互いが城を完成させると人形を使って両方を行き来し楽しみ始めました。言葉でのやり取りはありませんでしたが、「お城ってそうじゃないよ」と言い合うのではなく、それぞれのお城を作って楽しむ姿からは“どっちもいいね”という思いが伝わってきました。イメージの違いから揉めることもたくさんありましたが、その経験を経て友達のことも認められるようになっていきます。友達との関係が深まり、一緒に遊ぶことが楽しいと感ぜられる一年でした。